



# 北理研だより

< 200号 平成29年(2017年)7月24日 発行 >



## 札幌支部理科教育研究大会 第1回実行委員研修会を行いました

6月22日(木)、札幌北小学校において、標記研修会を開催いたしました。当日は、大会授業者に授業公開をしていただいた後、札幌北小学校の先生方と本会実行委員が集まり、全体会を行いました。その後、各学年部会に分かれ、10月の札幌支部大会に向けた授業づくりについて検討会を行いました。

### 1. 全体会

開会にあたって、類家 斉副会長から「今日は、日々実践を積み重ねていることが伝わる授業を見せていただいた。子どもを軸にした学び、問題意識の醸成、自分の思いを生き生きと語る子どもの姿などを大切にしていることが伝わった。北理研の力を結集して、共によりよい授業を作ることができるようにしていきたい。」という挨拶がありました。

続いて実践研究校校長でもある、永田明宏会長より「本校では一昨年から問題意識の醸成を中心に研究を進めてきている。子どもたちが意欲的に授業に取り組むためにはどうすればよいのか、子どもたちが活発に議論を交わす授業はどうつくればよいのか、ということの研究の中で探ってきている。今回は理科を通じて問題意識の醸成、問題解決の姿の在り方について教えていただきたい。職員一同、10月の大会に向けて勉強していきたい。」という挨拶がありました。

その後、北理研からの実行委員紹介、札幌北小教頭先生から職員紹介があり、続いて嶋野淳一研究部長による札幌北小学校の研究概要の説明と、三田村剛北理研研究部長による研究提案、今後の研究の進め方についての説明がありました。



### ○札幌北小の研究について

(嶋野 淳一 札幌北小研究部長)

札幌北小学校では、学校教育の重点目標「学ぶ価値を生み出し、人間関係力を育む学校」の具現化に向け、また昨年度までの研究から浮き彫りになった、主体性や協働性、学んだことを生かす力を伸ばすために、以下のような研究主題、視点を設定して2か年計画の2年目を迎えている。

#### 研究主題「豊かな思いをもち 学び合う子の育成」

「豊かな思い」→興味・関心をもちながら事象に関わり、見通しをもって活動に取り組む。また、振り返りを次への意欲につなげる。

「学び合う」→自分の考えをもつことで、他者の考えとの違いに気付き、自分の考えを深めたり、質を高めたりしていくこと。



#### 研究の視点

##### 視点1

「思いをもたせる授業」(個の学び)

◎問題意識の醸成

○子どもの分かり方を想定した教材選定、見通しをつくるための具体物、交流場面等

##### 視点2

「学び合いのある授業」(集団での学び)

○板書構成や子どもの心を揺さぶる問い返し等、学び合いを深める教師の関わり

○相互評価等、学びの深まりを実感させる価値付け

## ○研究内容等説明（三田村 剛 北理研研究部長）

### 【今年度の北理研の研究主題】

#### 「仲間と共に自然を見つめ、学び喜びを生み出す問題解決」

研究主題の実現に向けた重点を「主体的な追究が連続する学習」とし、子どもが前向きに、そして自分から自然事象に向かう、活動が連続する学習の実現を目指している。

札幌北小学校では、目指す子ども像として、「主体的に対象にはたらきかけ、豊かな思いをもつ子」と設定しているが、「主体的に対象にはたらきかけ」という部分は、北理研の重点と一致している。理科における「対象」とは、「自然事象」である。北理研では、子どもが自然事象に主体的に働きかけ続ける子どもの姿を目指している。

### 【研究を進めるためのポイント】

#### ポイント1…目標を位置付ける

目標が原動力となり、活動を進める中で問題意識が生まれる構成を目指す。  
（札幌北小の「思いをもたせる授業」、「問題意識の醸成」に関わる内容）

#### ポイント2…授業の終わり方

自然事象に関わる中で生まれる子どもの思いを重視し、授業の後半に引き出す。札幌北小の考える「話し合い」に「次の追究の方向性を生む」という視点を付け加えることで、より前向きに学習に取り組む子どもの姿が実現できると考えている。  
（札幌北小の「学び合いのある授業」に関わる内容）



## 2. 授業検討会

全体会終了後、学年部会毎に授業検討会を行いました。

### 3年部会「じしゃく」

公開授業での子どもの姿を基に、理科の授業像について意見交流をしました。その中で、子どもの連続した追究を実現する単元構成の重要性を共有できました。磁石に関わり触れながら自ら問題を見だし、主体的に活動する授業を目指します。



### 4年部会「ものの温まり方」

子どもの姿を基に目指す授業像を話し合いました。経験や素朴概念で目の前の事実が説明できないときに問題が生まれ、新たな追究に向かうことを共有しました。子どもが繰り返し事象に働きかけ、自らものの温まり方を明らかにする実践を目指します。



### 5年部会「電流が生み出す」

札幌北小の先生方の理科のイメージを伺いました。子どもの素直な反応や新たな一面が見られる面白さと、教材の選定や子どもの思いを生かす難しさが話題になりました。子どもの「明らかにしたい」という思いを基に追究が連続する授業を目指します。



### 6年部会「月と太陽」

子どもの姿を基に、場の構成や展開など、理科において目指す授業像について話し合いました。問題解決の過程で、子どもが観察記録に立ち返ることで、月と太陽の位置関係を推論し、月の満ち欠けの規則性や連続性を明らかにする学習を目指します。



### 3. 授業者の紹介

第3回札幌支部大会では、以下の先生が授業実践をさせていただきます。

3年生「じしゃく」



3年4組 佐野 哲史 先生

4年生「ものの温まり方」



4年4組 嶋野 淳一 先生

5年生「電流が生み出す力」



5年4組 林 翔理 先生

6年生「月と太陽」



6年2組 大坪 洋一郎 先生



6年3組 大佐賀 諒 先生

北海道小学校理科研究会 事務局長 三木直輝 (石山南小学校長)

Tel.591-4747 Fax.591-4912 e-mail : naoki.miki@city.sapporo.jp

担当：三浦貴広 (広報部長) 幌南小学校

Tel.521-0214 Fax.531-6754